滋賀県でのコイヘルペスウイルス（KHV）の発生状況

吉岡　剛

◆背景・目的

平成15年秋に茨城県霞ヶ浦で発生したコイヘルペスウイルス（ＫＨＶ）病が、同時期に霞ヶ浦よりコイを購入した県内業者の養殖池で確認され、瀬田川で斃死していたコイからも確認された。その後、水温の低下によりＫＨＶ病の発生は見られなくなったが、平成16年4月15日に瀬田川、4月16日に琵琶湖でＫＨＶ病が確認され、それ以降県内各所においてもＫＨＶ病が確認された。そこで、本県で発生したＫＨＶ病の状況について調査を行った。

◆成果の内容・特徴

- 琵琶湖では、平成16年4月16日に斃死したコイから初めてＫＨＶが検出された。その後、4月から8月にかけて大量斃死が起こり104,067尾が回収された。
- 回収状況と水温を検討した結果、15～25℃の間に斃死が起こり、25℃以上になると一気に終息した。（図１）
- 回収されるコイのほとんどが1kg以上の大型の個体であった。
- 観賞用のコイのＫＨＶ発生状況は、5月（3件）、6月（9件）、7月（8件）、8月（3件）、9月（0件）、10月（3件）、11月（1件）であり、12月以降の発生は無かった。

◆成果の活用・留意点

- ＫＨＶ病による大量斃死のため、琵琶湖のコイ資源は著しく減少したものと思われる。資源回復には、種苗放流が有効であるが、放流した種苗がＫＨＶ病により斃死する恐れがある。そこで、今後のＫＨＶ病の発生状況を把握すると共に、効果のあるコイ増殖方法を検討する必要がある。

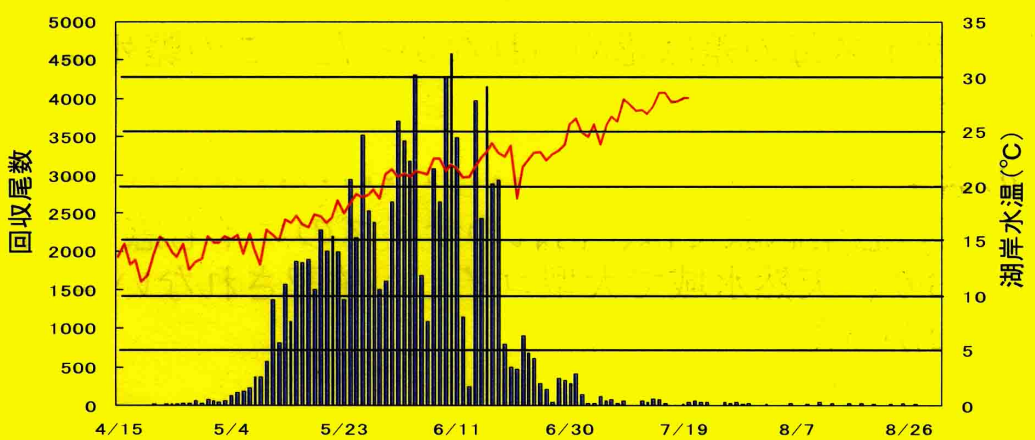

図1．琵琶湖の斃死コイ回収数と水温の関係
コイの回収尾数を棒グラフで、水温を折れ線グラフにて示した。